

お知らせ

○2月の定例活動日；2月13日（日）9時30分県民の森第2駐車場集合、伐採木の玉切り、シイタケ植菌、ホダ場保護、相対照度調査、巨木林調査、トビ観察ブラインドづくりなど予定しています。ブラインドは葺や竹材など自然の素材で作りたいたところですが、今シーズンの巣作り産卵に間に合うよう、今回は市販のすだれを用います。ある方は鋸、鉋、ハンマー（駒打ち）、チェーンソー（玉切り）を持参下さい。

○会員の退会；山田寛治さんは1月10日退会されました。お世話になりました。

活動の記録

1月10日（月） 快晴 参加は伊藤、鶴沢、大賀、加藤、坂本（文）、坂本（彌）高橋、中田夫妻、夏実、智貴、裕士、朱音、千晴、松本、真鍋の16名。この冬一番の寒さの中、先ず全員ほこら山で恒例の安全祈願のあと、野鳥調査、落葉集めてカブトムシの寝床づくり、シイタケ収穫、巨木林調査、マダケ林調査、シイタケホダ場の保護など分担して活動。最大のハイライトは豊英湖で婚活中のオシドリ観察でした。



豊英湖は子供たちの声で活気づく



ほこら山で年初めの安全祈願



落葉集めてカブトムシの寝床づくり

○落ち葉集めてカブトムシの寝床；中田さん一家のカブトムシ幼虫大量発生への期待にこたえるべく、落ち葉の堆肥場から完熟腐葉土と古い根を取り出し、新たに落ち葉を大量に入れました。周囲の柵を80センチほどに高くし、落ち葉を入れては踏み固める作業を繰り返し、立派な堆肥場に生まれ変わりました。作業には中田兄弟が大活躍し、一輪車を押したり踏み固めにジャンプをしたりと元気いっぱいでした。カブトムシの幼虫の発生時期が楽しみです。越冬中の幼虫は見えなかったため、今年の夏はあまり期待し過ぎないほうがいいかもしれません。（伊藤記）

○マダケ林調査

04年から著しくなったシカ食害への対策として「マダケ林保護林の設定と計測」を初めて5年が経過した。保護柵内の発生本数は年度変化が激しいものの、直径はおおむね5～6cmと安定している。保護柵設置前と比べると一回り細いが、マダケらしくすっきりしているとも言える。

現在まで枯れたものはないが、個々の竹は10年程度が枯れると言われているので、発生年度の明確なものが枯れるまで見届けたい。また「人間の利用による里山保全」の実践として、適正本数密度を推定し、保護区内からわずかでもタケノコを収穫し、4年目には一部を竹材としても利用してみたいと思っているが、ちょっと気が早いかもしれない。（伊藤記）

発生年数	06	07	08	09	10	(季節遅れに出てきた直径3cm以下の細い個体を除外してある)
発生本数(本)	9	6	11	28	13	
直径(cm)	6.2	5.6	4.8	5.5	5.6	

○巨木林下層木調査；大賀先生は12月に続き昨年1年間の成長量（根元径、樹高）を調査、A区画を終了しました。B、C区画の調査が残っていますが、今年の成長開始前に完了する必要があるため、2月以降調査応援が必要です。（真鍋記）

○シイタケ収穫；中田夏実ちゃん達も参加して楽しいシイタケ狩りでした。乾天続きのため、収量は少なく1㌦も少少でしたが、ドンコ揃いで味は抜群でした（松本記）。



採れたシイタケは重さを量り



林の中から対岸のオシドリ観察



タケの棧にネットをかけてサル避け

○野鳥調査；1月10日の野鳥記録は14種と番外1種（コブハクチョウ）でした。

カワウ2 カルガモ5 オシドリ31 トビ10+声 コゲラ2 ヒヨドリ（声）ジョウビタキ（声）ツグミ（声）エナガ12+声 ヤマガラ（声）シジュウカラ（声）メジロ2+声 ハシボソガラス2 ハシブトガラス（声）今回の初記録はカルガモ、ジョウビタキ、ツグミの3種で調査開始以来の累計は34種となりました。

オシドリが31羽も！

ホテイ岬の沖でオシドリ31羽を確認しました。近年オシドリは県内で増加しているらしく、目撃の回数が増えています。千葉市郊外の貯水池では一度に数百羽の大群が現れた事もあります。餌は地上や水上の植物質のもので、特にドングリ類を好むのが知られています。豊英島にはコナラやスタジイ等のドングリが多い上に、日頃は無人なので絶好の餌場になっていると思われます。豊英湖全体で100羽以上いても不思議はありません。昼間は水辺で休息しますが、岸から伸びた枝が庇の様に上部を覆った下に隠れているので、簡単には見つかりません。今回、開けた水面に現れたのは、1羽の雌に多数の雄が群がって求愛ダンスをする繁殖行動の最中だった為と思われます。31羽の中に雌はほんの数羽で大多数が雄だったことから、婚活中のグループだったようです。オシドリに限らずカモ類は冬の間に繁殖相手を決めるので、この時期は各地の水辺で面白い求愛ダンスが繰り広げられています。（坂本記）

○シイタケホダ場の保護；シイタケが出なくなった04年植菌ホダ場のネットを外し、09年植菌ホダ木にかけて支柱で支え、裾を古木で抑えました。杭打ちや結束など、冷えていた体がこの作業で温まりました。昨年植えた2列は2月に保護します。（真鍋記）

11月伐採木の径と長さを調べた結果、シイタケ菌駒2千本相当量があります。2月の植菌は2千駒を予定。雨で水漏れした物置天井の修理を予定していましたが、修復には構造を抜本的に変える必要があり、今回は補修を見合わせ、3月以降に先送りしました。

豊英島で子供たちは

中田真也子会員

活動日はこの冬一番とも言える冷え込みでしたが、初めての経験を沢山できて子供たちはとても喜んでいました。落ち葉掻きをして集めた落ち葉の上でぴょんぴょん跳ねて喜び子供たち、満面の笑顔でした。シイタケ狩りもずっとしたいと言っていたので本当に嬉しかったようです。またホンドテンやシカの糞らしきものを何箇所にも見つけたり、オシドリのカップルの様子を見せてもらったり、子供らにとって動物や鳥をより身近に感じるきっかけになったようです。親子ともども勉強になりました。今回あまり作業はお手伝いできませんでしたが（すみません。）、徐々に参加させていきたいと思っております。ありがとうございました。

